

# モンゴルにおける国家発展の基礎—モンゴル・ウルフ

北東アジア環境・農業研究センター (NGO、モンゴル・ドルノド県) 事務局長  
ルハグワスレン・ルハグワ

## はじめに

「モンゴル・ウルフ」とは何か。社会の基本的な単位は家庭であると信じられている。「ウルフ」とはモンゴル語で「一家」を意味する。「モンゴル・ウルフ」は、1990年代以降、十分な社会的な支援なしに置き去りにされてきた牧畜遊牧民たちのための「典型的な家族」によるコミュニティづくりを目的とするパイロットプロジェクトである。プロジェクトの目的は、持続的で自立可能な家庭づくりであり、現代的農業経営と一体となった遊牧や、公正かつ持続的な方法で市場に家族を集めることに結びつけるものである。

## 手段と手法

この研究プロジェクトの目的は、自らの製品を売るような持続的な現代的エコファームの開発、及びファームツーリズム・サービスの提供である。プロジェクトには田舎の小学校と研究センターが必須となる。パイロットプロジェクトはモンゴルのドルノド県チョイバルサンから38キロメートルのところに位置する。重要なのは、地方の諸条件に合致した研究に基づく農業経営手法を創造することである。

想定されるプロジェクトの主な環境的効果は、

- 育種の選択と地方の専門的な支援を通じた畜産経営の向上。
- 食肉加工の無駄を最小化し、食肉加工場における無駄ゼロ技術を使った付加価値の高い畜産品。
- 天然の牧草で育てる家畜飼育場、無駄ゼロの食肉加工場、コミュニティに根差した信託ファンドを持つ、小規模家庭農場の建設による財政的に強いコミュニティの建設。
- 社会的に持続性があり、環境にやさしい持続性を持ち、コミュニティに利益をも

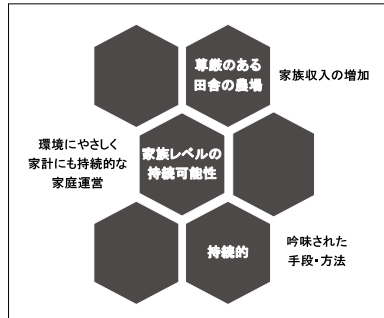
たらすような、遊牧民と定着牧畜家の組み合わせ。

- 田舎のコミュニティに残ってくれる若い飼育家を引き付けること。
- コミュニティレベルでの教育の提供。

田舎の小学校で現代的農業による次世代のための教育を行いながら、遊牧民の生活様式に基づく文化を守り、支援するために、家畜の供給をサポートし、食肉バリューサプライチェーンを構築することで、家族農場のネットワークを構築する。

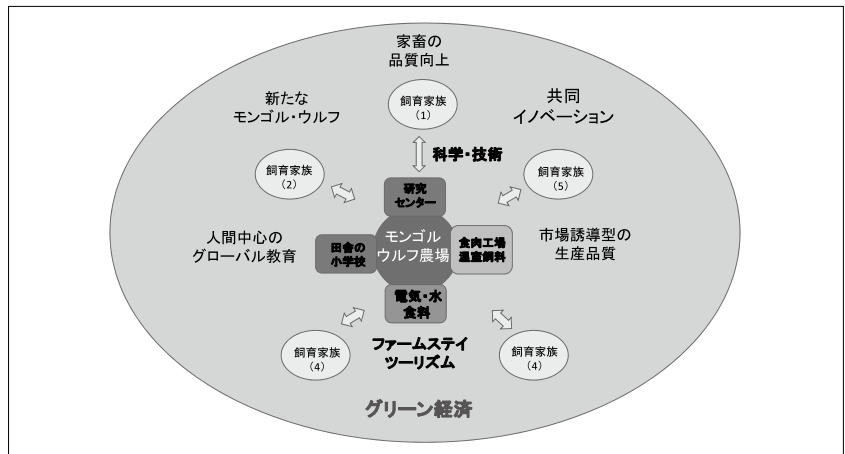
輸出するにふさわしい品質レベルと量を生産するため、「モンゴル・ウルフ」の家族農場は、すべての製品を包装して顧客に配送できるようなネットワークと配送センター

図1 持続可能な家族農場



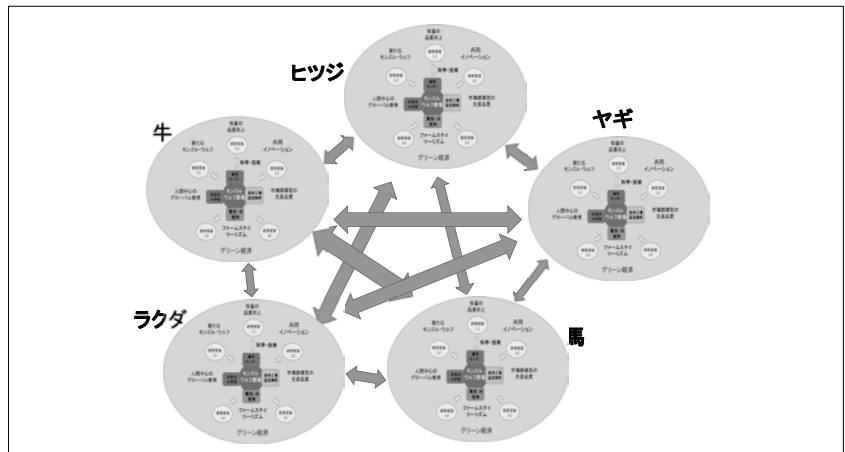
出所：筆者作成

図2 「モンゴル・ウルフ」ネットワーク開発センター



出所：筆者作成

図3 「モンゴル・ウルフ」コミュニティ支援ネットワーク



出所：筆者作成

図4 ザバイカリエ地方知事室での調査チーム会議



出所: 筆者

図5 北東アジアにおけるネットワーク



出所: 筆者作成

図6 日本のカウンターパートとの薬効植物調査



出所: 筆者

図7 ドルノド県のファームステイとモンゴル Seefood (食べ物見学) 社



出所: 筆者作成

図8 「田舎の小学校」プロジェクト



出所: 筆者作成

を構築することになるだろう。

研究センターの調査チームとモンゴル生命科学大学 (MULS) は、モンゴルとロシアの国境地域で、両国の知事の合意に基づく個人ファンドによる食肉バリューチェーンを運営したことがある。食肉バリューチェーンの研究、市場調査、市場がリードする食肉生産品質が、その時の主な研究テーマだった。

この研究の意義は、モンゴルから旧ソ連への牧畜製品輸出ルートに沿って、モンゴルの食肉提供を再開したいと願う食肉加工場で働く人々と出会ったことである。「モンゴル・ウルフ」農場周辺に、飼育場と食肉加工場を含む家畜疾病フリーゾーンを設けることで、ロシアや中国などの輸入国からの共同検査・承認による輸出安全ゾー

ンを創設し、輸出ルートを確立することができる。

モンゴル及びドルノド県が属する北東アジア地域にとって、薬効植物を育てることによる農業アプローチを支援することは極めて大きな機会である。この地域はモンゴルの他の地域に比べ気候が穏やかで、数百の薬効植物が育っている。

各家庭が特別なファームステイ・アプローチをとることにより臨時収入源とすることができる。

モンゴルの田舎の教育システムを改善するコンセプトを考慮した我々の田舎の小学校の提案は、遊牧民のライフスタイルの明るい未来のコンセプトである。

## 最後に

北東アジアにおける効果的な国際協力のために、まず地方の農業経営とその生産能力をより高い基準に引き上げることが必要である。したがって、すべてのレベルにおけるモンゴルの農産品の品質を守る能力を合わせ、天然の牧草で飼育された牧畜製品を近隣諸国に供給することが喫緊の課題である。

しかし、農業部門の発展には、田舎の発展を加速し、国の多くの部分にはびこる貧困と不平等を減らすことが必須であり、生産の増加を実現し、田舎の生計と貧困の軽減を改善するには、持続可能な農業技術が中心的役割を担わなければならない。

[英語原稿を ERINA にて翻訳]

## <参考文献>

Ts.Oyunsuren (ScD), O.Lkhagva (ScD), L.Lkhagvasuren (MSc), B.Tserendulam (ScD) G.Nomintuya (MSc) [2014] “Research on the Possible Effects of Natural Radiation in Low Doses on the Livestock Chromosome in Mongolia”, MAS Science Journal 2014